



南棟4階リハビリテラス

当院では、平成26年の診療報酬改定で廃止された亜急性期病棟にかわり同年5月より、新設された地域包括ケア病棟の施設基準の届出を行いました。現在は南棟4階(4S)で病床数40床にて運用しており、急性期医療を経過して症状が安定した患者さんに対して、在宅や介護施設への復帰支援に向けた医療や支援を行っております。

当院での当該病棟利用患者さんの平均年齢は67.2歳となっております。これは亜急性期病棟運用時の平均年齢と比べ4.8歳高齢化しており、75歳以上の患者さんが全体の47.8%と約半数を占めています。

地域包括ケア病棟について

医療事務部 入院課 課長 谷口 正貢



る状態です。また、思いがけない傷病の発症で一般病棟への再転棟を余儀なくされた患者さんの増加のため、在宅復帰率は徐々に減少している傾向にあり、患者層の高齢化が影響しているものと思われます。

病床稼働率は98.5%と高稼働状態を維持しています。患者さんの入室にはリハビリを要する状態を確認する必要がありますが、DPC診断群分類の入院期間Ⅱに入ったタイミングで当該病棟へ効率良く入室出来るように、対象者のリストを毎日更新しています。そのリストより各病棟師長が選定して主治医の許可、及び管理担当者の判断にて入室いただいております。

科別の利用割合は整形外科が全体の69.0%で一番多く、次いで内科が20.6%、

脳神経外科が5.3%という割合になっております。今後、内科系患者さんの利用をさらに増やしていくことにより病床機能の変更にも対応しやすく、機能分化の促進も期待できます。また平成28年の診療報酬改定では、それまで地域包括ケア病棟の所定点数に包括されていた手術点数が出来高で算定できるようになったため、多様な状態の患者さんの受け皿になる病棟だと考えています。

高齢化社会が加速し退院後の生活に不安を感じる患者さんが増えてきている中、地域包括ケア病棟の役割はますます重要なものとなってきています。

医師・看護師・リハビリ室をはじめとした関連部署との情報連携を密に取りながら、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。



リンクナース育成の勉強会の様子①

2010年の診療報酬改定により、呼吸ケアチーム加算が追加されました。当院ではそれに先行して同年1月に、医師、認定看護師、臨床工学技士、理学療法士の多職種で構成された呼吸ケアチーム (Respiratory-care-Support-Team:RST) を立ち上げ、活動を開始しました。2014年からは歯科衛生士も加わり、人工呼吸管理の実情把握、早期離脱、および合併症の予防に努めています。

RSTの主目的は「人工呼吸器管理が安全に実施できる」です。この目的達成のためには、

- ①診療支援(ラウンド、呼吸ケア診療計画書の作成、コンサルテーション)
- ②標準化(基本手技の統一、マニュアル・チェックリスト作成、使用物品の見直し)
- ③教育・啓発(RST主催の勉強会・研修会の開催)

当院における呼吸ケアチームの取り組み

呼吸ケアチーム・リハビリテーション室
課長 萩森 康孝



が重要であると思われます。

ラウンドの対象は人工呼吸器下管理中の症例で、毎週木曜日11時に集中治療室から開始します。評価項目は、安全に呼吸器管理ができていないか、適切なモードや設定になっているか、さらに鎮痛・鎮静コントロール、喀痰や加温・加湿、物品使用、口腔ケア、適切なポジショニングや呼吸リハビリの状況等、人工呼吸器以外にも及びます。呼吸器から離脱できるよう助言・支援を行っています。

また、定期的に会議を行い、メンバー間の情報交換や一年間の活動目標を立てています。2016年度の目標は「各病棟でリンクナースを育成する」ことで、5月より、人工呼吸器に関する勉強会を毎月開催しています。呼吸ケアチームのメンバーが講師を務め、各職種の専門性を活かし、座学と実技を組み合わせる内容で、30～60名の看護師に参加してもらっています。一般病棟では人工呼吸器管理の患

者さんが年に数例しかいない場合もあり、頻回に使用しないと忘れてしまうとの意見をよく耳にします。繰り返し人工呼吸器に触れ、定期的に学習することが必要かと思えます。

今後も積極的にRSTとして活動を行い、院内での呼吸器疾患に対する知識や能力の向上につなげ、より早い患者さんの回復に繋がると考えています。



リンクナース育成の勉強会の様子②